

## 12月議会で一般質問をしました

### Q: 子どもの安全対策 バスの置き去り事故防止対策について

バスの置き去りにより幼児が死亡する痛ましい事故が発生している。市ではどのような対策をとっているのか。

A: 現在、バス送迎にあたっての安全管理に関する実地調査をすすめています。また、国において緊急対策「こどものバス送迎・安全徹底プラン」が示され、市でも安全管理を徹底するよう注意喚起を行っています。なお、国において安全装置に係る補正予算の動向に合わせて、速やかに予算措置と条例改正を行ってまいります。

⇒国の予算化により、**送迎車両への安全装置の導入**が決定しました。

さいたま市では1億5990万円の予算

内容:安全装置導入、登降園管理システム導入、GPSを活用した子どもの見守りタグ

### Q: コミュニティフリッジの設置について

コミュニティフリッジは、食品ロス対策と生活困窮者対策を同時に解決する新しい方策であり、対象者が登録すれば24時間、365日食料援助を受けることができる。本市も取り入れてはどうか。

A: 本市で開催した食品ロス削減全国大会において研修会を開催し、知見を深めている。本事業が食品ロス削減に有効な取組であることから、商工会議所等に情報共有をはかり、課題を検討してまいります。

### Q: 視覚障がい者のための同行援護事業支援について

視覚障害の方が自立していくためには同行援護は必須のサービスであるが、その事業所は減少し、養成の受講者も少ない。同行援護従業者養成研修を行う事業者と研修受講者を増やすことを支援していくことを望むが、市の対応は？

A: 養成研修については、県に働きかけてまいります。また、**市内の障害福祉サービス事業所**に研修の受講を働きかけるとともに、**一般の方への周知も検討し、研修事業者の増加も図ってまいります**。視覚障害のある方が同行援護のサービスを利用しやすい環境の整備に努めてまいります。

### Q: 秋葉の森総合公園の整備について

これから始まる南工区の整備計画は？

豊かな自然を誰もが楽しむために地元の方の生活に配慮し、協力を得ながら公園の整備を行うことがサステナブルで魅力ある都市公園のあり方であると考えている。市の見解は？

A: 約10ヘクタールの公園用地のうち、約6ヘクタールは「自然環境保存ゾーン」とし、4ヘクタールを健康・レクリエーション機能や子育て、教育機能の確保を目的とした「人間活動ゾーン」とします。現在バーベキューエリア約1.3ヘクタールの整備工事に着手し、令和6年度の完成を目指し、順次整備をすすめてまいります。議員ご指摘の**周辺の住環境にも十分に配慮した管理を行ってまいります**。

### Q: 指扇小学校と公民館の複合施設計画について

指扇地区は人口増加が著しく、新しく転入された方々が生涯学習できる施設が考えられていない。地元からは再三にわたり、要望が出されているが、市の対応について伺う。

A: 指扇小学校の校舎の改築、改修等のリフレッシュ工事にあたり、**指扇公民館との複合化**を図ることで、地域コミュニティの核となる学校づくりに取り組んでまいります。具体的には、ホール機能の充実に取り組み、新たに転入された住民の皆様との学びや交流拠点となるよう努めてまいります。

また、複合化メリットを生かして、小学校の**特別教室の一部を公民館利用者が利用できる**ようにするなど、ラーニングコモンズの視点を取り入れて参ります。**今年度基本設計**をすすめております。通信環境も計画の中に十分取り入れてまいります。

※ラーニングコモンズとはIT機器や学習スペースなどを備え、さまざまな学習形態の活用に対応する総合的な自主学習のための環境

### Q: 郷土の理解と伝統文化の継承について

地域の伝統文化に触れることはかけがえのない機会であり、大切な育みであると考えますが、市としての見解を伺う。また、活動休止中の西区の餅つき踊りに市として支援を講じるべきと考えるが、その見解については？

A: 地域に伝わる貴重な伝統文化にふれあい、継承することは、子どもたちにとって、郷土を誇りに思う意識醸成のため、大切な育みの一助となるものと認識している。保存団体にとって高齢化は大きな課題である。各団体の現状を調査するとともに、**踊りや歌を映像で記録保存し**、ホームページに記載するなど、情報発信してまいります。今後、学校行事や出前授業などを通じて、**子どもたちが伝統文化に触れ合う機会が設けられる**よう、体制を整えてまいります。地域でご尽力されている皆様の優れた技や心を次の世代へと安心して引き継げるよう最大限つとめてまいります。

この他に、**川越線複線化の推進、放課後児童クラブの支援**などについて質問しました。詳しくは議会中継をご覧ください。



## まちづくり委員会で質問しました

### コミュニティバス、乗り合いタクシーの運行について

①Q: コロナによる影響によって、外出制限が解除になった後も、高齢者は外出を制限している。収支率40%での路線廃止基準は見直しが必要では？

A: 地域公共交通協議会において、令和元年度から今年度までの収支率は参考値として扱っている。今後の基準の見直しについては、慎重な検討を行う。

②Q: 高齢者の免許返納を推進している市の立場からは、高齢者の割引制度をつくっていく必要があると考えるが、市の見解について伺う。

A: 超高齢化社会を見据えた公共交通の利用促進は、重要な課題と認識している。そのため、**部局を横断した公共交通利用促進及び移動支援庁内検討会議をこの11月に設置し**、第1回会議を開催した。高齢者の移動支援事業や外出支援策の検討など、課題を確認している。運賃等に対するシルバー元気応援券やアクティブチケットの導入の可能性についても検討してまいります。